

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立円山川公苑	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	兵庫県スポーツ協会円山川公苑グループ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	建物内清掃・屋外ゴミ処理・河川敷漂着ゴミ処理・公苑全体環境美化	日常清掃業務業者委託年240日、それ以外は職員が清掃。川岸漂着一斉清掃。(年間多量の漂着ゴミは、随時職員で回収した)。ごみ収集・運搬・処理は業者委託週1回。産廃処理随時実施。	◎	◎
	設備保守管理	電気工作物保守、浄化槽維持、水質検査、冷凍機保守、空調保守、濾過機保守、救助艇・カッター保守、プール濾過器保守、受水槽清掃、ガスヒートポンプ保守、定期清掃、消防用設備保守点検	電気工作物保守及び浄化槽維持管理は毎月、水質検査年1回、空調保守を空調設備総合点検として年4回、濾過機保守年2回、救助艇・カッター保守、受水槽清掃、ガスヒートポンプエアコン保守、クレーン保守、定期清掃を年1回、消防用設備保守点検を年2回実施。	◎	◎
	植栽管理	除草・芝刈り、高木、低木剪定、除草、施肥、目土・植樹	4月～10月の期間業者委託した。センター広場の公苑内の芝刈り等芝生管理、夏期スロープ付着藻の除去作業、強風、降雪による樹木の枝折れの等撤去は職員で実施。	○	○
	警備	業者委託により機械警備実施	とどこおりなく実施。	◎	◎
	小規模修繕	利用者の安全に関わるものを最優先に実施 施設維持に関わるもの、毎年整備が必要なものを実施	プールサイド滑り防止追加塗装修繕、獣害被害防止柵設置工事、ボートヤードスロープゴム取替工事、カッター浸水修繕など。	○	○
	法定点検の実施	定期的な巡回点検の実施。カヌー・カッター等備品の点検整備。救助艇の点検整備。	雷検知システムによるリアルタイムでの気象情報確認、インターネットによる天候状況の監視、レスキュー要員の適切な配置。カッター気密テスト、カヤックの更新、救助艇の点検整備を実施し利用者の安全に努めた。電子帳簿保存法に対応するために新規にソフトも導入。	◎	◎

運営業務	開館日・開館時間等	5月～10月無休、12月30日、1月2日開苑	計画どおり開苑・営業	◎	◎
	公共性・公平性の確保	自然学校利用におけるインターネット申し込みを活用した利用調整	自然学校は152校の申し込みがあり126校が実施(悪天候中止16校・キャンセル10校)	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	美術館展覧会3事業、スポーツ事業21事業、各種大会2事業計26事業を計画。	美術館展覧会3事業、スポーツ事業21事業(内、雨天中止イベント2)、各種大会2事業を計画どおり開催。延べ26,363名の参加者であった。	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査予約サイトクチコミ等)	利用者アンケート 施設受付、美術館内にて実施 じゃらん、アソビュー 事業終了後のサイトからのクチコミ	随時実施 管理・運営に関するアンケート 1スタッフ:84%(大変満足・やや満足) 2施設・設備・展示・教室:86%(高評価のクチコミ多数	○	○
利用状況	利用者数	[R4年度:計74,350人] プール5,142 スケート5,194 ボートヤード24,900 センター広場25,045 美術館6,856 展示室1,312 会議室545 その他5,356	[R5年度:計82,378人] プール6,922 スケート5,552 ボートヤード24,153 センター広場26,296 美術館9,861 展示室1,586 会議室2,851 その他5,157	○	○
	施設稼働率	R4年度稼働率 プール専用2.1 スケート専用19.9 展示室50.0 会議室1.4(単位%)	R5年度稼働率 プール専用4.3 スケート専用16.5 展示室100.0 会議室5.3(単位%)	○	○
収支状況	収支計画と実績	R4指定管理料96,613 利用料金収入7,460 自主事業収入4,659 その他手数料収入432 計109,164	R5指定管理料100,673 利用料金収入7,803 自主事業収入5,454 その他手数料収入479 計114,409	○	○
	経費節減に向けた取組	電気料金の入札を実施し、新電力会社を選定する。	電気料金の入札を実施、間際まで検討があったが、昨今の状況から結局応札者がなかった。日々の消灯に努めるなどで節電。	△	△
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の声を聴き、施設運営に生かすため、チェックボックスによる、答えやすいアンケートの実施。	利用者・受講者アンケートやサポーターへのアンケート実施などにより苦情・要望等の把握に努めた。	○	○
	危機管理体制の確保	救急救命等講習を実施。気象状況等の把握。消防訓練、避難誘導、消火訓練。ボートヤード救助訓練を実施。	救急救命講習会、消防訓練及びカヌー利用時レスキュー訓練を実施した。	○	○

	県・関係機関との連携	豊岡市消防本部への消防計画書提出・連絡。市町及び小中学校、観光協会、城崎温泉旅館組合への広報協力依頼。	事業広報活動を計画通り実施した。 新たに地元の県立芸術文化観光専門職大学の副学長を運営委員に招聘し、連携の強化を図った。	○	○
	業務の再委託の状況				

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

モンベル、日本障害者カヌー協会、地元地域振興グループ、一般社団法人豊岡観光イノベーション等と連携した各種事業を展開した。

また、国内大手の遊び体験予約サイトである「じゃらん net」、「アソビュー」などを活用して、全国規模の広報と参加予約の利便性を進め、自主事業全体で人数、料金収入とも約 115% 増となった。次年度はすでに R5 年度に一部の協定を締結した芸術文化観光専門職大学との連携をすすめ、より一層の利用者増を目指す。

自然学校については、児童数の減少に加え、送迎バス代の高騰、丹波少年自然の家の廃止等の影響を受け、利用校が減少した。自然学校プログラムの概要が判る動画を YouTube アップし、また、県下の全公立小学校へ広報紙を配布するなどしたが、コロナ禍前の水準には戻すことが出来なかった。今後も自然学校については現状を維持することも困難な状況と考えている。

また、老朽化による施設設備の改修や各種備品を更新しなくてはならない事項が多くあり、その対応に苦慮している。

令和5年度 総合評価シート

評価者:教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立円山川公苑	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	兵庫県立スポーツ協会円山川公苑グループ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数は、前年より約8千人増加、利用料金収入等は、前年度比約 1,185 千円増と運営は改善されているが、新型コロナウイルス流行前の水準には戻らないままであった。また、自然学校利用についても、152 校申し込みがあったが、キャンセル等により 126 校の実施にとどまった。

アンケートを随時実施し、その内容をその都度事業実施に活かした結果、アンケートでは8割程度が大変満足・やや満足となり、利用者のニーズに十分応えている。また、芸術文化観光専門職大学等と新たに連携するなど運営改善に取り組んでいる。

施設維持管理業務においては、委託業者と職員が連携し清掃にあたるとともに、年数回の設備保守点検を行い利用者の安全を優先した取組をしている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者数及び利用稼働率等については、年度途中で新型コロナウイルスが5類に移行され、制限がなくなったことにより、前年に比べ増加している。来年度以降は、今年度反響のあった事業内容を更に工夫するなど、利用者人数等の回復に努めてもらいたい。

施設維持管理業務においては、利用者の安全を優先した取組をしているが、利用者人数等の回復により予期せぬ事故増加すると予測されているため、引き続き安全対策に努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B	B		

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立奥猪名健康の郷	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	奥猪名みらい創造プロジェクト 国際ライフパートナー株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	建物を常に清潔な状態を維持し、快適性を高めるため、日常清掃、定期清掃、臨時清掃を計画的に実施する。	清掃担当者を適正に配置し管理水準に沿った清掃を行った。また、建物全体の窓ガラスの清掃、施設内の床清掃を日常とは別に、臨時で実施した。また、お風呂の天井や壁を1週間毎に高圧洗浄を掛けており、天井のくすみや壁の汚れがなくなっている。ただし、大規模改修工事で行ったお風呂のタイルに亀裂が入ったままである。	○	○
	設備保守管理	電気設備、給水設備、排水設備、消防設備、浴室管理、テニスコート、体育館、管理棟などの点検並びに修繕の実施。	保守点検を適切に行っており、本年度も建築物の定期点検を、社内資格者による自主点検を年1回行い細部の点検が実施できた。ただし、経年劣化により不具合が多く出て来ており、その対応に苦慮したが小修繕は施設職員で修繕を行っており管理は上手く保たれた。	◎	◎
	植栽管理	施設内の草刈、高木、低木の剪定、雑木の伐採。	施設職員により、景観が保たれるよう随時草刈りの実施、高木や低木の剪定を実施した。また、本年も台風の影響により倒木や木の枝が折れてしまったが、撤去や剪定を行ったことにより、景観が保たれた。また、松枯れがひどくなっており倒木をすると危険なので、順次伐採を行っている。	○	○
	警備	利用者の安全を第一とし、危険予知と早期発見に努め、施設内の巡回点検を行う。	施設の要所に設置した、4台のカメラにより24時間録画監視体制を敷いている。また、職員による利用者への声掛けや巡回は継続して行っていることにより、大きな事故等もなかった。	◎	◎
	小規模修繕	機能、性能の劣化により使用目	お風呂ろ過ポンプ整備他工事	◎	◎

		的に耐えられない状態になる前に、早期に対応策の検討を行い、修繕計画を策定する。	275,000 円 集会室 A 放送設備更新工事 240,900 円 ロτζ棟 ABDE 玄関照明更新工事 202,400 円 受付前パッケージエアコン更新工事 711,700 円 体育館及び渡り廊下ガラス修繕工事 495,000 円 301 号室動力エアコン更新工事 429,000 円 浴室側溝修繕工事 209,000 円 他		
	法定点検の実施	施設管理運営に必要な諸法令の法定点検を行い、円滑な運営を保持する。	消防用設備等点検委託(機器点検) 66,000 円 貯水槽・高置水槽清掃消毒他委託 163,900 円 地下タンク及埋設管漏洩検査業務委託 82,500 円 消防用設備点検委託(総合点検) 77,000 円 防火対象物点検委託 38,500 円 前田温水ヒーターばい煙濃度測定委託 88,000 円 他	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	年中無休開館 9 時～21 時 30 分 日帰り入浴 11 時 30 分～21 時 30 分	年中無休開館 9 時～21 時 30 分 日帰り入浴 11 時 30 分～21 時 30 分	◎	◎
	公共性・公平性の確保	全ての利用者に対して公平かつ適切なサービスを提供する。	予約受付については、毎月 1 日に抽選制を導入しており、より公平に幅広い利用者に使って頂けるよう配慮した。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	幅広いプログラムメニューで施設の活性化を目指す。	本年度も、野外活動事業のみならず、多種多様な自主事業を実施しました。事業の PR については近隣の各小学校や、自治会にチラシを配布すると共に、町内及び近隣の公共施設の窓口に設置をして頂いた。また、フェイスブックや町の広報紙民間新聞紙への掲載による参加者の獲得を行ったことにより多くの参加者を得ることが出来た。ほぼ、コロナ前に戻って来た様に思われる。	◎	◎

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	宿泊利用者や自主事業参加者にアンケートを実施し、利用者・参加者のニーズの把握に努める。	自主事業のアンケート結果は総じて好評であった。宿泊者にあっては、コロナウイルスの影響もようやく治まって来たので、コロナ前にほぼ戻って来た様に思われる。	○	○
利用状況	利用者数	対昨年度増加 令和2年度実績 72,484人 令和3年度実績 39,414人 令和4年度実績 95,216人	令和5年度実績 102,543人 本年度は、コロナウイルスの影響もようやく治まり、一般宿泊客も大分戻ってきた。 なお、丹波少年自然の家が閉館された事により、多くの小学校が当施設へ自然学校に来られたことにより、これも起因して利用人数が少し増えた様に思われる。	○	○
	施設稼働率	対昨年度増加 令和4年度実績 和室：10.4% ロジ棟：13.3% 体育館：23.0% 集会室：3.1% テニスコート：16.7%	令和5年度実績 和室：30.0% ロジ棟：20.7% 体育館：20.6% 集会室：9.7% テニスコート：15.2%	○	○
収支状況	収支計画と実績	令和4年度実績 利用料金収入：13,578,480円 その他収入：3,700,714円	令和5年度実績 利用料金収入：16,438,710円 その他収入：3,731,641円	○	○
	経費節減に向けた取組	節電、節水などの利用者への啓蒙や、老朽部分の修繕による、経費の節減対策。	草刈や樹木の剪定、また小規模修繕については積極的に施設職員で行った。 弊社のISO9001による環境マネジメントに則し、環境マネジメント教育、訓練を実施し、環境負荷逓減に取り組んでおり一部経費の節減に繋がった。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者アンケートに加え、ご意見箱を設置し利用者からの、不満点を把握する。	利用者からの要望をより細かく受け止められるように、ご意見箱の設置とアンケートを実施した。両方とも多数の意見をいただいております利用者のニーズ把握がしやすかった。	◎	◎

危機管理体制の確保	「利用者の安全を第一」に考え、安全・安心の対応に努め、「緊急事態は起こり得るもの」ととらえ、危機管理マニュアルを策定。	自然に恵まれた立地と野外活動施設という観点から、天候の動向にも気を配り、危険を察知した場合は利用者に注意喚起を促すよう指導を行った。異常発生時には危機管理マニュアルに基づいた行動が取れるよう職員に周知を図った。また、有事の際を想定し、消防訓練を行い常に職員が危機感を持って行動できるよう周知徹底を図った。	◎	◎
県・関係機関との連携	報告・連絡・相談を密にして、連携体制を築き上げていく。	管轄の猪名川消防署、川西警察署、木津駐在所、猪名川町役場、猪名川町水道課や地元の方々との連絡を密にし、日々情報の収集を行った。	◎	◎
業務の再委託の状況	当該施設の食事提供に、協力企業として野外活動施設で、アレルギー対応を良く分かっているTSKサービス(株)と提携し、ニーズに合った食事提供を行う。	昨年度は、コロナウイルス等の影響により宿泊客のキャンセルが多く、十分な食事の提供が出来なかったが、今年度は食堂開館日に入浴客や一般来客者に喜んで頂ける様、新たなメニューの提供を行った。また、自然学校のアレルギー対応も各学校と保護者とも調整し最善の食事提供を行った。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 総合的な自己評価

・地元自治体や近隣自治体への啓発、各種団体への啓発や民間新聞紙への掲載、また SNS 利用により自主事業への多くの参加者の獲得を得ることが出来た。また、宿泊客についてはコロナウイルスの影響もほぼ戻って来た様に思われますが、自然学校の多くの受入れにより、一般客の宿泊や入浴客に制限が出ている。

その他は、大規模改修工事及び計画修繕工事後の不具合があるものの、安定した管理体制のもと適正な管理運営を行うことができた。

2 来年度の取組目標

・コロナウイルスの影響により、施設利用客や収入が減少していたが、ようやく元に戻ってきていることから集客数を取り戻すため SNS や紙媒体での自主事業の PR や周辺地域・各種団体へ当施設の啓発を行い利用者の獲得を図ると共に、昨年度に増して当施設の認知度 UP 及集客数の増を図る。

3 課題

・大規模改修・計画修繕工事を実施して頂いたが、多くの不具合が出てきており日常の管理に苦慮している。また未改修部分は経年劣化によりかなり老朽化している。

未改修部分の修繕工事を行わないと劣化が進めば修繕費用も多額になることから、早急に修繕工事を実施する必要がある。

・今まで沢山の自然学校を受けて頂いていた、青垣町にある「丹波少年自然の家」(阪神 7 市 1 町及び丹波地域で構成されている一部事務組合)が解散されたことにより、令和 6 年度の自然学校の申し込み校が当施設に多くあり、抽選を行うこととなってしまう、近隣校を落とすこととなってしまったことは大変残念である。なお、令和 7 年度も沢山の申し込みを頂いている状況であり、これから毎年この様な事が起こると思われる。

また、自然学校を多く入れるとお風呂が貸し切りとなり一般の入浴客が入れなくなることから、遠のかれる可能性がある。

4 その他

・施設内及び施設周辺に位置する、民有地の取得を願いたい。

令和5年度 総合評価シート

評価者:教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立奥猪名健康の郷	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	奥猪名みらい創造プロジェクト 国際ライフパートナー株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数は、前年より約7千人増加、利用料金収入等は、前年度比約 2,891 千円増と運営が改善されており、新型コロナウイルス流行前の水準までおおむね回復することが出来ている。また、自然学校利用についても、19校 1,462 人と昨年度より受け入れ数が増えている。

施設維持管理業務においては、日常清掃、設備点検、植栽管理、施設巡回等に努め、安全で快適な施設管理・運営を行うことができています。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

今まで自然学校を受け入れていた県内施設が解散することにより、自然学校の受け入れが増え、兵庫県全域より利用者が集まった。自主事業についても、様々なイベントを開催し、利用者アンケートでも「同じイベントに参加しますか」の項目において、絶対参加したい 44%、都合があれば 54%と好評である。来年度以降も一般利用者数等の増加及びリピーターの確保に努めてもらいたい。

危機管理体制確保においては、危機管理マニュアル策定や消防訓練を行うなど有事の際を想定した対策が行っている。引き続き、自然災害が多い立地のため施設周囲まで気を配った運営をしてほしい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B	A		

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立兔和野高原野外教育センター	現指定管理期間	令和5年度～7年度(3年間)
指定管理者	香美町	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	①宿泊施設内等の日常清掃の実施する ②日常清掃の他に退所時の点検・清掃を徹底して実施する ③除菌清掃を実施する	①宿泊施設内等の日常清掃を実施した ②特に退所時の点検・清掃を徹底して実施した。 ③必要箇所の除菌清掃を実施した	◎	◎
	設備保守管理	①安全な施設、設備の維持管理に努める ②水道、消防、電気設備など法定検査を実施する	①②各種法定点検実施のほか、設備維持のため専門業者による設備点検やメンテナンスを年1回以上実施した	◎	◎
	植栽管理	エリアごとに担当を設け、計画的に草刈・芝刈り・除草・枯死木の伐倒等を実施する	①シルバー人材センターより地元場内作業員を雇用し、草刈作業を実施した ②樹木医によるお手植え木診断と処置を実施した ③職員や森林組合による枯死木伐採、森林整備を行った	○	○
	警備	<宿泊利用者がいる場合> 宿直代行員を配置する <宿泊利用者がいない場合、木の殿堂> セコム(株)による夜間の機械警備を実施する。日中は利用者がいなくても1名以上の職員を配置する	<宿泊利用者がいる場合> 宿直代行員を配置し、電話対応や緊急時に備えた <宿泊利用者がいない場合、木の殿堂> セコム(株)による夜間の機械警備を実施した 日中は利用者がいなくても1名以上の職員を配置した	◎	◎
	小規模修繕	①小規模かつ緊急の修繕については、指定管理料から予算執行する ②高額な修繕は所管課と協議する	①小規模かつ緊急の修繕については、指定管理料から予算執行を行った ②高額となる施設設備の修繕については所管課と協議し、予算要求を行った	○	○
	法定点検の実施	水道設備、浄化槽、消防設備、電気設備、公用車、昇降機など法定検査を実施する	専門業者に委託し、全ての法定点検をクリアした	◎	◎

運營業務	開館日・開館時間等	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 定休日なし (12/31~1/3 休館日) 開館時間 9:00~21:00 < 木の殿堂 > 月曜日定休日 (12/31~1/4 休館日) 開館時間 10:00~16:30(冬期 16:00)</p>	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 定休日なし (12/31~1/3 休館日) 開館時間 9:00~21:00 < 木の殿堂 > 月曜日定休日 (12/31~1/4 休館日) 開館時間 10:00~16:30(冬期 16:00)</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	<p>①設置管理条例に基づき利用者受け入れを行う ②公共施設予約システムの一部運用をおこなう ③HP、SNS での告知、DM 発送などで広報を行う</p>	<p>①予約受付の混乱を避けるため、利用団体により時期をずらして受付を行った ②公共施設予約システムにて「デイキャンプサイト」の運用を行った ③HP、SNS での告知、DM 発送などで広報を実施した</p>	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 施設の特長を生かし、各種主催事業を実施する < 木の殿堂 > 入館者増につながる特別企画展、創意工夫し手作り教室等を実施</p>	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 「夏の親子キャンプ」等計16事業を実施した < 木の殿堂 > 特別企画展11事業、手作り教室29事業、ふれあいの森活動を7事業実施した</p>	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	<p>団体利用者を対象にアンケートを実施する</p>	<p>団体利用者を対象にアンケートを実施した。職員の対応については約100%の利用者から「満足」との回答を得た</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 延べ 28,000人 [前年度実績:23,372人] < 木の殿堂 > 入館者 25,000人 [前年度実績:10,030人]</p>	<p>< 兎和野高原野外教育センター > 延べ 24,579人 < 木の殿堂 > 入館者 15,384人</p>	△	△
	施設稼働率	<p>①施設稼働率の向上を図る ②入館者増の取り組みを行う</p>	<p>①新規利用者の獲得を図るため広報に努めた ・但馬地域以外の自然学校を誘致した ②新規来館者・リピーター確保のため、バラエティに富む特別展示を実施した</p>	△	△
収支状況	収支計画と実績	<p>人件費の高騰を緩和するため、人員を削減し管理運営費の改善を図る</p>	<p>会計年度任用職員(スポット)日数の削減、職員の超過勤務の抑制を行った</p>	○	○
	経費節減に向けた取組	<p>光熱水費等経費削減に向けた取り組みを行う</p>	<p>暖冬雪不足等によるキャンセルの影響で、燃料費・光熱水費を削減した</p>	○	○

運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの要望の把握と対応	利用者からのアンケートや聞き取りにより、要望に応える小規模修繕や快適な施設提供に努めた。	○	○
	危機管理体制の確保	①災害時等緊急マニュアルの作成 ②夜間緊急時の召集体制作り ③新型コロナウイルス感染対策	①災害時等緊急マニュアルを作成し、訓練を年2回実施した ②夜間緊急時の召集体制とマニュアルを作成した ③感染者が出た場合の対応について協議し実施した	○	○
	県・関係機関との連携	①兵庫県、関係機関との連絡・連携 ②香美町・関係機関との連携	①兵庫県、関係機関との連絡網・連携体制を作成した ②香美町各課、教育委員会、関連施設と連携を行った	○	○
	業務の再委託の状況	職員では実施困難な業務について、専門業者へ業務委託を実施する	法定点検の必要な業務、定期的な管理が必要な業務を中心に、専門業者へ委託業務を実施した	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<総合的な自己評価>

5月以降ポストコロナにおいて、ほぼ通常の受け入れを行った。兎和野高原では自然学校の利用増(6校 延4,423人増)があったが、冬期の雪不足によるキャンセル等があり大幅増には至らなかった。木の殿堂においても対前年では約153%の入館者となったが、団体の戻りが悪く目標に届かなかった。

<来年度の取組目標>

【自然学校の受け入れ拡充】

R4年度旧豊岡市内の自然学校、R5年度から全県より新規自然学校利用が増え、5月～7月中旬と9月～11月初旬にほぼフルで自然学校の利用があった。R6年度、R7年度についても同様の予約状況であるため安全、安心な利用はもちろん、各学校の狙いに沿った自然学校になるようサポート体制の充実を図る。

【地域連携の拡充】

「うわのツツジまつり」「第12回姫ポタル・瀬川平トレイルラン」「秋の兎和野・瀬川山岳歩こう会」「OSJ KAMI 100」等これまでの取り組みに加え、更に地域の団体や施設との連携を図る取り組みを推進する。香美町が推進する山・川・海の施設連携なども実施する。

<課題>

【老朽化施設の修繕】

R2年度の計画修繕工事の対象外となった屋外施設、キャンプ場等の老朽化が目立つ。緊急性・危険性のある個所については小規模修繕を実施し、大規模なものは引き続き主管課と協議をしながら修繕を進めていきたい。

【冬期備品の購入】

R5年度大型の圧雪車が老朽化による修理不可で廃車となった。圧雪車は冬期の受け入れを行うのに必須備品あるため所管課と協議をしながら是非購入を実現させたい。

【お手植えの木の管理】

全国植樹祭から30年を経過し、害虫や菌の侵入により樹勢が弱っている木もある。樹木医による診断や応急処置を行っているが、根本的な解決には至っていない。今後、財源を含めどう維持管理していくか課題である。

令和5年度 総合評価シート

評価者:教育委員会事務局 体育保健課

施設名	兵庫県立兔和野高原野外教育センター	現指定管理期間	令和5年度～7年度(3年間)
指定管理者	香美町	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者数は、前年より約6千人増加、利用料金収入等は、前年度比約 2,766 千円増と運営は改善されているが、新型コロナウイルス流行前の水準には戻らなかった。また、自然学校利用についても、45 校 1,680 人と昨年度より受け入れ数は増えているが、稼働率は依然として低いままである。

施設維持管理業務としては、敷地が広い施設であるが、委託業者と職員が連携しエリアごとに担当を決めるなど、計画的に草刈りや除草を実施することで、安全で快適な施設管理・運営を行うことができている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者数及び利用料金収入等において、年度途中で新型コロナウイルスが5類に移行され、制限がなくなったことにより、前年に比べ増加している。来年度以降は、雪などの天候に左右されにくいプログラムを増やすなど、今年度反響のあった自主事業内容を更に工夫し、自然学校利用者とバランスをとりながら、利用者の満足度を向上させる取り組みに努めてもらいたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B		—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である